



平成24年12月10日

卓話 『日本経済の展望』

日本銀行副総裁

山口 廣秀 様

山口でございます。この4年間、日本経済は前例のないショックに見舞われ続けました。08年9月のリーマンショックに始まり、ギリシャの財政問題発覚と危機第一波、欧州全体への波及、昨年3月の東日本大震災、同年夏以降の電力制約の経済活動への影響、同年秋のタイの洪水被害、ギリシャ危機第二波とEU崩壊の危機、10年夏以降の円高継続、今年秋の日中問題です。

これだけ多くのショックに見舞われ続けたわけですから、当然、日本経済は低調な状態を続けざるを得ませんでした。この間、政策当局は財政面、金融面で相当大胆な施策を実施してきましたが、日本経済は低調な状況が続け、デフレからも脱却できず、財政は世界で稀にみる赤字をためてしまっています。

こう申し上げますと暗い話ばかりですが、実はこれだけの状況でも日本経済が色々な場面で強靱さをみせたのもこの時期の特徴だと思います。一つ目は、リーマンショック後、企業は採算ラインの低下に向けて目を見張るような努力をされました。二つ目は、東日本大震災ではサプライチェーンが寸断され、修復までに一年近く要すると思っていたところ、実際には夏前に大震災前の生産水準に戻っていました。三つ目は円高への対応で、企業の方々の大変なご苦労で生産プロセスの抜本的な見直しを含めて対応が急ピッチで進められているように思われます。企業の方々に円の採算ラインを伺うと、2年位前は90円台でしたが、最近では82、3円で何とかペイするようになってきたという話をいただきます。

今、日本経済は若干の後退局面に入っています。

海外経済は減速し、米国も当面は財政の崖に苦勞している状況です。日本の輸出は低調。内需は勢いを失いかけています。しかし来年を展望するとそう暗いことばかりではないと思います。

まず世界経済ですが、そう遠くないうちに底を打つだろうと思います。頼りはアメリカです。リーマンショックでのバブル崩壊から漸く立ち直りの気配をみせ始めており、財政の崖もアメリカのことですから放置しないでしょう。そうなれば、企業の設備投資マインド、雇用マインドも大きく改善することが期待できます。中国も、この6、7月に金利を引下げ、9月には財政の投入も行っておりますので、金融・財政面からの経済の活性化が期待できると思います。一方、欧州は期待できず、低迷を続けるだろうと思います。しかし、アメリカにリードされ、中国もそれなりに回復すれば、日本の輸出も遠からず回復に向かい、企業収益が回復し、設備投資や雇用が増え、賃金が増加するという自律的な回復メカニズムも作動してくるはずで、そこに日本企業の強靱さがうまく噛み合えば、日本経済は緩やかではあってもしっかりした回復ペースを辿っていけると思いますし、日本銀行も引き続き金融面から全面的に支援していきます。

ご静聴ありがとうございました。

